

インターバンクの声（2016 年 4 月 7 日）

3 月 15 - 16 日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨が発表されたが、やはり世界的な景気減速による影響が懸念されるとして 4 月の利上げは見送られそうな気配だ。利上げに対し積極的な一人と思われていたセントルイス連銀のブラード総裁も、最近発表されている経済指標が強弱混在しているとして、4 月の FOMC で利上げを決定するのが難しい可能性があるとの見方を示している。議事要旨の内容を見越していた部分もあったのかも知れないが、昨夜のニューヨーク市場では序盤からユーロ、円、豪ドルがドルに対して強含んだ。そのため、議事要旨の発表後にはユーロや円が小幅反落している。菅官房長官も為替市場で円高が進んでいることに関し「為替市場の動向を緊張感をもって注視し、必要に応じて適切に対応していきたい」と語っていたようだが、前日に安倍首相の米電子版メディアのインタビュー記事で為替介入が難しいと述べたようなヘッド・ラインが躍ったので、市場も簡単にはドル買いに反応しなくなっている。目先は 110 円台に戻ればドル売りが殺到しそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。